

大学・高専機能強化支援事業（支援 1：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F112310102431	設置等組織名	情報変革科学部（情報工学科、認知情報科学科、高度応用情報科学科）
大学名	千葉工業大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	千葉県	事業計画名	千葉工業大学情報変革科学部の新設

1.フェーズ別の計画及び取組状況

フェーズ別の事業計画と取組状況、年度別の自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は「取組状況」に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請をした場合は「取組状況」に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応	
フェーズ1				
フェーズ2 後期し				
認可申請 又は届出	令和5年4月26日 情報変革科学部情報工学科、認知情報科学科、高度応用情報科学科の設置届出済	令和5年4月26日 情報変革科学部情報工学科、認知情報科学科、高度応用情報科学科の設置届出済		
フェーズ1 後期し				
フェーズ2	① 令和5年9月 新学科の教育・研究に必要な基幹LAN整備Ⅰ期 ② 令和6年3月 新学科の教育に必要な講義室・演習室整備Ⅰ期 (工事完了時期を記載)	① 令和5年9月 新学科の教育・研究に必要な基幹LAN整備Ⅰ期 ② 令和6年3月 新学科の教育に必要な講義室・演習室整備Ⅰ期 (工事完了時期を記載)	R5年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
開設 又は定員増	令和6年4月1日 情報変革科学部開設（入学定員360人、編入学定員0人、工学関係）	令和6年4月1日 情報変革科学部開設（入学定員360人、編入学定員0人、工学関係）		
フェーズ2 後期し	③ 令和6年10月 新学科の教育・研究に必要な基幹LAN整備Ⅱ期 ④ 令和7年3月 新学科の教育に必要な講義室・演習室整備Ⅱ期 (工事完了時期を記載)	③ 令和6年10月 新学科の教育・研究に必要な基幹LAN整備Ⅱ期 ④ 令和7年3月 新学科の教育に必要な講義室・演習室整備Ⅱ期 (工事完了時期を記載)	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
フェーズ3	③ 令和6年4月～令和10年3月 基幹LANⅠ期分保守 ④ 令和6年10月～令和10年3月 基幹LANⅡ期分保守	③ 令和6年4月～令和10年3月 基幹LANⅠ期分保守 ④ 令和6年10月～令和10年3月 基幹LANⅡ期分保守	R6年度自己 評価	【3】計画を十分に実施している。
定員減又は 学部等の廃 止	令和6年1月29日 募集停止の報告済 情報科学部情報工学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係）、 情報科学部情報ネットワーク学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係） 令和9年4月 廃止の届出予定 情報科学部情報工学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係）、 情報科学部情報ネットワーク学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係）	令和6年1月29日 募集停止の報告済 情報科学部情報工学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係）、 情報科学部情報ネットワーク学科（入学定員140人、編入学定員0人、工学関係）		

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	千葉工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	■ チェック
------	--------

ii) 学校教育法109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	■ チェック
------	--------

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	■ チェック
------	--------

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	■ チェック
------	--------

v) 大学、短期大学及び高等専門学校等の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	■ チェック
------	--------

3.申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①

高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。

確認を受けている	■ チェック
確認の対象に該当しない	チェック

②

十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

③

産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

④

特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑤

計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑥

特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑦

社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑦

学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑧

入学定員が20名以上増加する計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑨

事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	■ チェック
----------------------	--------

⑩

大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

⑪

フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

計画通りに進んでいる	■ チェック
------------	--------

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	千葉工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑫

計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

計画通りに進んでいる

■ チェック

⑬

選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した

■ チェック

⑭

文科科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

認定を受けておらず申請する意向もない

■ チェック

4. 審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報変革科学部では、サイバーセキュリティに関する科目の教材を「国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）」と連携して作成することとしている。また、入学初年度の基礎的なセキュリティ教育では「Ciscoシステムズ合同会社」と連携して、Ciscoネットワークアカデミーによるe-Learningの導入を行う予定である。更に、アメリカの各大学で実施されているサイバーセキュリティ教育プログラムをモデルとして、本学版の教育プログラムを構築し、学部横断型の履修証明プログラムを開設する予定であり、このプログラムでは、社会全体におけるサイバーセキュリティ技術の向上に貢献できるよう、国際的に広く学外者を募集する計画である。 次に、プログラミング言語教育では、将来的にプログラミング言語自体が多様化していく状況を踏まえて、最新の言語教育も実施できるよう、本学変革センターと連携した「IQL言語」の使用を計画している。「IQL言語」は本学変革センターも関わり開発が進められており、既にアメリカのMITで教育プログラムが展開されていることとなっている。情報変革科学部では、これをモデルとして、本学版の教育プログラムを構築し、授業に組み込むことを計画している。この計画では、「IQL言語」を組み込んだ授業科目を履修証明プログラムとし、最新のプログラミング言語を社会普及させるための貢献活動を行う予定であり、国際的に広く学外者を募集すると共に、包括連携協定を締結している玉川大学及び山梨大学にも公開することを計画している。	情報変革科学部におけるサイバーセキュリティ教育については、2023年度からNICTの「CYNEXライアンス」に参加して教材開発を行っており、現在、学内でサイバーセキュリティコースの教育プログラムと採用コンテンツを検討している。また、2024年度入学生には、既に「数理・データサイエンス・AI入門（必修1単位）」においてCisco Networking Academyを活用した「千葉工業大学サイバーセキュリティ入門コース」を開設しており、サイバーセキュリティの基礎教育をe-Learningで開始している。 現在、構想中のサイバーセキュリティコースは、社会人におけるリカレント、リスキングの機能を確保し、履修証明プログラムとしても展開する予定にしている。 情報変革科学部のプログラミング言語教育では、既に「AI・プログラミング基礎演習」を開設しており、新言語として想定している「IQL言語」は、MITと連携した教育の実証検証を通して、本学の授業に組み込む予定で進めている（現在のPythonから調査、IQLに切替える）。また、授業パッケージが確定し次第、社会人及び包括連携協定校にも提供する予定にしている。	教育プログラムの構築自体には、大きな課題はないが、これらを実践し、広く展開するためには、今回の機能強化支援事業で併せて申請している「学内ネットワークインフラ」の強化・充実が必要となる。

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック a. 入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における新たな取組として、将来のデジタル社会を新なる発想でリードできる有為な人材発掘を目的とした総合型選抜を、情報変革科学部を対象に実施する。その他、学校推薦型選抜（指定校制）においては、高等学校等からの推薦者に女子が含まれる場合は提示した推薦枠を拡大するなど、女子学生確保に向けても取り組んでいる。 初等中等教育段階の学校との連携については、出張授業の他、情報デザインをテーマとした、高校教員との意見交換会や連携協定校におけるプログラムを実施している。	計画の通り、情報変革科学部を対象とした新たな総合型選抜である、総合型（デジタルイノベーター発掘）選抜を2023年10月15日に実施し、無事終了した。募集人員15名に対し、47名の志願者が集まり、当学部の求める学生像を満たす選抜を行うことができた。 女子学生確保に向けた取組として、学校推薦型選抜（指定校制）において推薦者に女子が含まれる場合の推薦枠拡大も計画通り実施した。本取組以外の広報活動の影響もあると思われるが、学校推薦型選抜（指定校制）における女子の志願者は昨年比104.79%という結果となった。 初等中等教育段階の学校との連携については、計画通り、出張授業、情報デザインをテーマとした高校教員との意見交換会及び連携協定校におけるプログラムを計16回実施した。	

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	千葉工業大学
-------------	-------	-----	--------

2.申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	☒ チェック
------	--

ii) 学校教育法109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	☒ チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	☒ チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	☒ チェック
------	--

3.申請要件の取組状況

令和6年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。					
	<table><tr><td>確認を受けている</td><td>☒ チェック</td></tr><tr><td>確認の対象に該当しない</td><td>☐ チェック</td></tr></table>	確認を受けている	☒ チェック	確認の対象に該当しない	☐ チェック	
確認を受けている	☒ チェック					
確認の対象に該当しない	☐ チェック					
②	十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の特組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
④	特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑤	計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑥	特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑦	学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑧	入学定員が20名以上増加する計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑨	事業計画の選定があった日から4年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる、又は設置等を行った</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック			
計画通りに進んでいる、又は設置等を行った	☒ チェック					
⑩	大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					
⑪	フェーズ3の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去5年間の中央値3年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。					
	<table><tr><td>計画通りに進んでいる</td><td>☒ チェック</td></tr></table>	計画通りに進んでいる	☒ チェック			
計画通りに進んでいる	☒ チェック					

フォローアップ対象年度	令和6年度	大学名	千葉工業大学
-------------	-------	-----	--------

⑫	計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。		
	計画通りに進んでいる	☒ チェック	
⑬	選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和5年4月13日文科科学大臣認可）六（2）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。		
	計画の具体化に努め進捗報告を行い、会議に参加した	☒ チェック	
⑭	文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。		
	認定を受けておらず申請する意向もない	☒ チェック	

4. 調査事項における確認項目の計画及び取組状況

令和6年度の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合は、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

- ☒ チェック
- a. 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
- ☐ チェック
- b. 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
- ☒ チェック
- c. 関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
情報変革科学部では、サイバーセキュリティに関する科目の教材を「国立研究開発法人情報通信研究機構（NICT）」と連携して作成することとしている。また、入学初年度の基礎的なセキュリティ教育では「Ciscoシステムズ合同会社」と連携して、Ciscoネットワークアカデミーによるe-Learningの導入を行う予定である。更に、アメリカの各大学で実施されているサイバーセキュリティ教育プログラムをモデルとして、本学版の教育プログラムを構築し、学部横断型の履修証明プログラムを開発する予定であり、このプログラムでは、社会全体におけるサイバーセキュリティ技術の向上に貢献できるよう、国際的に広く学外者を募集する計画である。 次に、プログラミング言語教育では、将来的にプログラミング言語自体が多様化していく状況を踏まえて、最新の言語教育も実施できるよう、本学変革センターと連携した「IQL言語」の使用を計画している。「IQL言語」は本学変革センターも関わり開発が進められており、既にアメリカのMITで教育プログラムが展開されていることとなっている。情報変革科学部では、これをモデルとして、本学版の教育プログラムを構築し、授業に組み込むことを計画している。この計画では、「IQL言語」を組み込んだ授業科目を履修証明プログラムとし、最新のプログラミング言語を社会普及させるための貢献活動を行う予定であり、国際的に広く学外者を募集すると共に、包括連携協定を締結している玉川大学及び山梨大学にも公開することを計画している。	情報変革科学部におけるサイバーセキュリティ教育については、2023年度からNICTの「CYNEXアライアンス」に参画して教材開発を行っているが、2025年度から学内のオリジナル教材とCiscoシステムズ等の教材により「特別専門学修プログラム（サイバーセキュリティコース）」を開講している。また、2025年度入学生においても「数理・データサイエンス・AI入門（必修1単位）」の中でCisco Networking Academyを活用した「千葉工業大学サイバーセキュリティ入門コース」を実施しており、サイバーセキュリティ基礎教育のe-Learningを継続している。 現在、開講している特別専門学修プログラム（サイバーセキュリティコース）は、社会人におけるリカレント、リスキングの機能を確保し、履修証明プログラムとしても展開できるよう検討を進めている。 情報変革科学部のプログラミング言語教育では、2024年度から「AI・プログラミング基礎演習」を開講しており、2025年度も継続している。新言語として想定している「IQL言語」は、MITと連携した教育の実証検証を通して、本学の授業に相応む予定で進めている（現在のPythonから適宜、IQLに切替える）。また、2024年度にアメリカのアリゾナ州立大学と連携協定を締結したことにより、授業の一部はアリゾナ州立大学のコンテンツを利用することも計画している。授業パッケージが確定し次第、社会人及び包括連携協定校にも提供する予定にしている。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

- ☒ チェック
- a. 入学者選抜における科目の見直し
- ☒ チェック
- b. 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
- ☒ チェック
- c. 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
- ☐ チェック
- d. 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキングへの対応）
- ☐ チェック
- e. 留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
入学者選抜における新たな取組として、将来のデジタル社会を新らしい発想でリードできる有為な人材発掘を目的とした総合型選抜を、情報変革科学部を対象に実施する。その他、学校推薦型選抜（指定校制）においては、高等学校等からの推薦者に女子が含まれる場合は提示した推薦枠を拡大するなど、女子学生確保に向けても取り組んでいる。 初等中等教育段階の学校との連携については、出張授業の他、情報デザインをテーマとした、高校教員との意見交換会や連携協定校におけるプログラムを実施している。	計画の通り、情報変革科学部を対象とした総合型（デジタルイノベーション発掘）選抜を2024年10月27日に実施し、無事終了した。募集人員15名に対し、55名の志願者が集まり、当学部の求める学生像を満たす選抜を行うことができた。また、2022年4月高校1年生から新学習指導要領がスタートし、「情報Ⅰ」が必修科目となったことにより、2025年度入試では「情報Ⅰ」を合否判定に活用した。具体的には、共通テスト利用入学試験や共通テスト併用型試験において選択科目として活用した。 女子学生確保に向けた取組として、学校推薦型選抜（指定校制）において推薦者に女子が含まれる場合の推薦枠拡大も計画通り実施した。本取組以外の広報活動の影響もあると思われるが、学校推薦型選抜（指定校制）における全体の女子の志願者は昨年比113.5%という結果となった（情報変革科学部は91.3%）。 初等中等教育段階の学校との連携については、計画通り、出張授業、情報デザイン・DX等をテーマとした講演会の他、高校教員との意見交換会及び連携協定校におけるプログラムを計25回実施した。	2年間実施した総合型（デジタルイノベーション発掘）選抜を継続するしないかを含め、入学者選抜の見直しが必要と考える。

大学名	千葉工業大学
-----	--------

1. 本事業対象となる学部等の状況

<合計>

[illegible]

大学名	千葉工業大学
-----	--------

改組内容 既存学部における学科の新設（当該大学が授与する学位の分野の変更を伴わないもの）

学部学科名 情報変革科学部認知情報科学科

[illegible]

大学名	千葉工業大学
-----	--------

(3)

大学名	千葉工業大学
-----	--------

2.理・工・農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

[illegible]

大学名	千葉工業大学
-----	--------

3.大学（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1990	1990	1990																
		入学者数	人	2,474	2,372	2,265																
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,990	1,990	1,990																
		入学者数(B)	人	2,474	2,372	2,265																
		入学定員充足率 (B/A)	倍	1.24	1.19	1.14																
	収容定員等	収容定員(C)	人	7960	7960	7960																
		編入学定員	人	0	0	0																
		在籍者数(D)	人	9478	9574	9560																
		編入学者数	人	76	57	51																
		収容定員充足率 (D/C)	倍	1.19	1.20	1.20																

4.外部資金の状況（全学）

年度			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
改組状況			選定－5年	選定－4年	選定－3年	選定－2年	選定－1年	選定	開設			完成年度									
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円		534,999	628,675	641,489	756,005	613,940	524,455	755,302												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	628,035
本事業による助成金の額(F)	千円	187,009
フェーズ3の助成期間終了時までに達成する額 (E+F×2.5%)	千円	632,710

特記事項

収想定員等における編入学定員“0”は若干名を指す
